

- ★ 低温、日照不足で茎数が少ないほ場が多い！
- ★ 浅水管理で茎数の確保を！

1 君津地域の生育概況

育苗期間中の3月下旬から4月下旬にかけては、気温がやや高く、苗丈はやや長めであったものの順調に生育しました。移植後の4月末から5月中旬にかけては、低温・寡照条件で推移したため、多くのほ場で、活着が遅れ、茎数が少ない傾向にあります。5月下旬は、平年並みの気温となり、日照時間も増加したため、各品種で分けつが進んでいますが、全体的には、まだ平年より遅れています。

低温や日照不足の影響で生育が停滞したほ場では、浅水管理にして水温を高め、茎数の確保に努めましょう。茎数が確保されたら、茎数過剰になる前に中干しを開始しましょう。

害虫については、イネミズゾウムシの食害が多く、一部のほ場ではイネゾウムシに葉が切られている状況が見られました。

2 生育調査ほの調査結果※（5月19日）

品種		田植え日	葉令 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	R4年	4/21	6.8	29.0	10.6	164
	R3年	4/16	7.9	28.1	16.8	259
	前年比	+5	-1.1	103%	63%	63%
ふさこがね (木更津市)	R4年	4/19	6.1	23.3	8.2	161
	平年値	4/21	6.2	24.5	5.4	102
	平年比	-2	-0.1	95%	152%	158%
コシヒカリ (君津市)	R4年	4/22	5.5	27.2	4.9	73
	平年値	4/26	5.5	28.3	11.4	182
	平年比	-4	±0	96%	43%	40%
粒すけ (君津市)	R4年	5/3	5.1	23.1	6.4	104
	平年値	5/3	5.4	23.9	6.0	96
	平年比	±0	-0.3	97%	107%	108%

※平年値について、ふさこがね、粒すけは令和2,3年の平均、コシヒカリは令和1~3年の平均です。ふさおとめは令和3年から新たなほ場で調査をしているため、平年値はありません。

-郵便で配信している方へお願い-

通信費削減のため、「あぜみち」の配信を、郵便から、電子メール又はFAXへの切替えを進めています。変更いただける方は、下記まで御連絡ください。

連絡先 池田(いけだ) t.ikd79@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299 (電話)

3 これからの管理のポイント

① ほ場ごとに茎数を確認し、中干しの適期実施

今年は、いずれの品種でも茎数の少ないほ場が多いです。浅水管理で早急に茎数を確保しましょう。茎数が確保されたら、根の生育を促すため、また、過繁茂を防ぐため中干しを開始しましょう。表1に示されている目標茎数に到達したら、中干し開始の目安となります。中干しは、稲の生育に大きな影響を及ぼし、かつ生育制御ができる重要な管理作業です。中干しの強さは、田面に軽い亀裂が入り、田面を歩いて長靴が沈まないくらいを目安とします。

表1 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m ² (27本/株)	480本/m ² (27本/株)	440本/m ² (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)
コシヒカリ	4月20日	320本/m ²	310本/m ²	300本/m ²
	5月1日	(18本/株)	(17本/株)	(16本/株)
粒すけ	4月20日	472本/m ² (26本/株)	440本/m ² (24本/株)	

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

※極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがあります

② ばか苗病の発生・対策について

「ばか苗病」が種子生産ほ場やその周辺ほ場で発生すると、種子として出荷できなくなります。千葉県内の種子生産ほ場の半分以上は君津地域に存在しています。県産優良種子の安定生産のためにも、「ばか苗病」を本田で確認した際には、抜き取ってほ場から離れたところで処分し、新たな感染源とならないよう御協力をお願いします。

③ 病害虫の発生に注意！

農林総合研究センター作成の病害虫発生予報第2号によると、スクミリンゴガイの発生量は「やや多」、いもち病、イネミズゾウムシは「並」の予報となっています。

ここ数年、いもち病の被害が多くなっています。今後、いもち病の発生を防ぐため、補植用の置き苗は早めに処分しましょう。また、今年はイネゾウムシによって葉が切れたほ場が多いので、多発しているほ場では適期防除を行いましょう。

④ (三島ダム水位低下による渇水への対策として) 節水への御理解と御協力を！

今年は平年に比べて5月の降水量は多い状況ですが、今後の梅雨の降雨状況によっては渇水となる可能性があります。かけ流し防止や漏水防止による節水への御協力を今後もお願ひします。

※ 次号は「6月8日頃」発行予定